

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2022.11

No.134

会報

目次

■ 令和5年度（第45回）通常総会のご案内	1
■ 岡田吉美先生を悼む	2
■ 第45回日本分子生物学会年会（MBSJ2022）開催のお知らせ（その4）	4
■ キャリアパス委員会主催 ランチタイムセミナー 2022 「アカデミアからの起業」 「研究室の働き方改革～ with コロナ時代のネクストスタンダード～」	11
■ 研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー 「論文」を情報源とした発信、全部信じて大丈夫？」	12
■ 第46回日本分子生物学会年会（MBSJ2023）開催のお知らせ（その1）	13
【年会長の挨拶 その1】	13
【年会組織】	14
【プログラム概要】	14
【公募シンポジウムの企画公募について（1月31日(火)受付締切）】	16
【日程表（予定）】	19
■ キャリアパス委員会報告	20
■ 高校などへの講師派遣について	21
■ 第23期理事選挙結果のご報告	22
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	23
■ 第22期役員・幹事・各委員会名簿	24
■ 賛助会員芳名	25



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<https://www.mbsj.jp/>

第46回

日本分子生物学会年会 2023

年会長：林 茂生(理化学研究所生命機能科学研究センター)

オンライン
先行開催 11/27(月)～12/1(金)

オンサイト
開催 12/6(水)～8(金)
神戸ポートアイランド

演題投稿期間：7/3(月)～7/31(月)
事前参加登録期間：7/3(月)～10/10(火)



令和5年度（第45回）通常総会のご案内

令和4年11月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 白髭 克彦

以下の要領で第45回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

ご承知のように、本法人の重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員の総数の1/2以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様のご積極的なご参加をお願いいたします。

記

日 時：令和4年12月1日(木) 19:00～20:00

会 場：幕張メッセ 国際展示場（第19会場）

予定議題：1) 経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）

2) 令和4年度（2022年度）決算承認の件

3) 令和5年度（2023年度）活動予算書承認の件

4) その他

◎以下のいずれかの方法でご出欠回答をお願いいたします。

ご都合がつかない場合には、必ず委任状をご提出ください。

①学会ホームページに設置されている出欠回答（委任状）フォーム
（右のQRコードからアクセス）

②学会よりメール配信された回答フォーム（10月末配信）使用によるメール送信

③新年度の会費請求書（11月初旬発送）に同封されている出欠はがき



※総会会場にて軽食をご用意する予定です。

（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

岡田吉美先生を悼む

東京大学大学院総合文化研究科

渡邊雄一郎



日本分子生物学会の記念すべき1978年12月の第一回年会（創立大会）の年会長を務められ、以後3期にわたり評議員を務められた岡田吉美先生（東京大学名誉教授）がこの8月17日、享年93歳でご逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

第一回年会の時は私が岡田先生の研究室に配属できた前の段階で、岡田先生が当時の東大理学部生物化学科で担当されていた生体物質化学という授業の一受講者であった。秋学期開講当初から、12月に大きな学会を行わなければならないので休講にするとされたことを、今でも覚えている。どれほど大事な学会なのだろう、非常に興味がそそられた。大手町の農協ビルで行われた会場に行ったわけではないが、プログラムでその内容を拝見した。授業で触れられた事項がいくつも講演タイトルに散りばめられ、それだけで興奮したことを記憶している。当時はまだ2会場の学会ではあったが、設立時ということで全て手探り苦勞の連続であったものと、今想像する。1970年からの分子生物学シンポジウムに始まった機運の高まりで日本分子生物学会設立に至った経緯について、のちに研究室に配属されてから話を伺った。

岡田先生は大阪大学（旧制）理学部化学科入学後、タンパク質化学の権威であった赤堀四郎先生の研究室でタンパク質化学の研究を

始められた。山村雄一先生の研究室の助手として1959年九州大学医学部医化学教室、1962年転任された大阪大学医学部附属癌研究施設で務められ免疫化学を専攻された。1961年「ツベルクリン蛋白質の化学的修飾」で理学博士を取られた。当時まだDNAやRNAの配列を決定する技術は生まれていない。翻訳されてできているタンパク質のN末端側からのアミノ酸配列をなんとか決定できたという時代である。侮るなかれ、それが威力を発揮する。

1964年、米国オレゴン大学分子生物学研究所に客員准教授として留学する機会を得られた。当研究所のStreisinger博士と共同でT4ファージのリゾチームタンパク質に注目して、フレームシフト変異の存在を生化学的に初めて証明された。当時Nirenberg博士によってコドン表中の64箇所に対応するアミノ酸の決定が進行していた最中である。Ochoa博士の発見した酵素で人工合成されたRNAを試験管内翻訳系に入れて、重合されたポリペプチドにどのアミノ酸が組み込まれるかで暗号が解かれつつあった。ただその手法ではアミノ酸を規定するコドン間に使われないヌクレオチドはない（ギャップはない）というCrickの予言に対する確証はまだ得られていなかった。T4ファージに注目され、大腸菌からなるローン（lawn）背景に希釈されたファージがプラーク（透明斑）を作るのを利用し、そのプラークのサイズの大きさからファージがコードするリゾチームタンパク質の機能に関する数多くの変異体がとられた。リゾチームの機能が落ちれば、プラークができない、あるいは小さいものしかできなくなる。これを最初の変異体とし、次にこの変異体から変化して、逆にプラークのサイズが大きくなる復帰変異体を努力してとられた。その中にはtrue revertantもあるが、中には2番目の変異が起こることで表現型が戻ったものが取れてくる。最初の変異が塩基の挿入によるもので、2段階目の復帰変異として、近くの別の箇所に塩基の欠失が起こったと考えられる変異体が取れたのである。1番目の挿入と2番目の欠失でORFのフレームが戻る、ただしその2箇所の間のアミノ酸配列は野生型と異なることが予想された。若かりし岡田先生は野生型とその二重変異体由来のリゾチームを大量に作らせた上で精製し、トリプシン分解したのち分離挙動の異なるペプチドを取り出した。あとは得意の技術でアミノ酸配列を決めた。結果が出た。あとは当時決まりつつあったコドン表の情報との突き合わせである。

Streisinger博士は、Nirenberg博士とリアルタイムで（当時は電話で）情報を共有していたそうだが、ある日、ついに決まったという知らせを受けて、岡田先生は2つの異なるアミノ酸配列が、できたてのコドン表をもとに、今で言うところのフレームシフト変異を想定して説明できるかを、緊張をしながら検討されたそうである。結果はほぼ矛盾なく説明できたのである。今であれば塩基配列を決定すればいい話であるが、当時その技術はない。コドンの実態がようや

く見え始めた段階であり、直接配列を知ることができない。当時のパズルを解くような高揚感を、時を超えて岡田先生の話から我々も感じたものである。ただし矛盾する箇所が一つあった。Nirenberg 博士が最初に発表したコドン表で帰属されていたアミノ酸が、岡田先生の手持ちデータと矛盾したのである。岡田先生がその矛盾する箇所があることを Cold Spring Harbor Symposium で発表したところ、Nirenberg 博士はその学会中にその箇所を訂正したそうである。こうして現在のコドン表となった。

岡田先生は帰国後、当時農林省新設の植物ウイルス研究所（当時は千葉にあり、のちに筑波に移転。組織も農水省農業生物資源研究所となり、さらに現在では農研機構（国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構）の血清研究室長となり、タバコモザイクウイルス（TMV）の研究を始められた。1972 年大学紛争直後で落ち着かない東京大学理学部生物化学科教授に就任。TMV は一種類の約 2100 個のコートタンパク質（CP）が、遺伝子である約 6400 塩基長の RNA の周りに会合して棒状の粒子を構成する。岡田先生は特定の溶液環境中で CP とゲノム RNA を混ぜると自発的にウイルス粒子が再構成されることに注目し、その素過程について解析をされた。当時、野村真康博士のグループなどリボソームの高次構造形成の研究にも注目が集まっていた時期である。

一本鎖ゲノム RNA の末端から会合が起こると思われる棒状のウイルス粒子の会合過程であったが、実は予想外のことが起こっていた。核酸の一方の末端にタンパク質が結合していく会合の様式であれば、RNA の端は一つしか見えないはずだが、実際には二つの RNA のヒゲがタンパク質会合体から出ているのが電子顕微鏡観察で見えたのである。こうしてゲノム RNA の内部配列にウイルス粒子会合の開始点（Oa: assembly origin）があることが受け入れられ、次にタンパク質がそこにどのように会合していくのが問題となった。CP が一旦円盤状に会合した 20S ほどのディスクが RNA と最初に会合することがまず明らかとなったが、その後の粒子構造の伸長過程について論争が始まる。当時構造生命科学のメッカであった Cambridge の権威ある研究者はその後ディスクが会合して伸長する説を出していた。しかし自らの実験結果から岡田先生は CP モノマーが速い会合に関わると主張し、真っ向から対決することとなる。以後積み重ねられた実験結果をもとに岡田モデルが認められていく。その結論が James Watson 博士の教科書にも図と共に紹介された。Watson 博士が来日時にその図を見せてくれたと喜んでおられた先生を懐かしく思い出す。欧米の研究者は権威ある Cambridge に楯突くということは恐れ多くてできないのが常だそうだが、俺はそんなものには左右されないと何度ともなく我々に語っておられたのが懐かしい。

1980 年代になると RNA の塩基配列決定、そして DNA の塩基配列決定方法が報告され、核酸研究時代に突入する。そしていわゆる遺伝子組換え実験の方法が開発され、その重要性を感じ取った岡田先生は、TMV 研究において、cDNA の合成、クローニング、塩基配列決定という技術導入を行なった。当初、逆転写酵素は市販されておらず、当時京大ウイルス研究所におられて逆転写酵素を自前で精製されていた石濱明先生の研究室に伺って、いただけてくるというミッションを受けたこともあった。岡田研究室に所属させていただいたおかげで、このような必要性からも初期の本学会を担った先生方と様々な交流を経験し、人間関係から分子生物学を学ばせていただいた。

RNA 研究の難点はなんといっても、不安定、維持していても配列の一部が変化する可能性があることである。そこで長い RNA であっても一旦 cDNA を合成し、転写プロモーター下流にその配列を連結し、試験管内で RNA ポリメラーゼによる転写反応を行うことで感染性のあるウイルスゲノム RNA が人工合成できる系を確立した。さらに変異導入技術を当てはめることで天然には存在しない変異ウイルスゲノムを合成することが可能となった。こうして RNA 遺伝子研究、ウイルスゲノムの逆遺伝学的な研究の先駆けとして数多くの研究成果を挙げられた。ウイルスゲノム上にコードされたタンパク質の機能の同定、ゲノム RNA 上のさまざまな配列の機能の証明などウイルスゲノムに関する情報を発表された。岡田先生は東大定年退官後には帝京大学工学部に 10 年務められた。1998 年 8 月 Edinburgh で国際シンポジウム “Tobacco mosaic virus: Pioneering research for a century” に岡田先生は招聘され講演をなさった。2004 年には研究成果をまとめつつ、人類が最初に発見したウイルスである TMV についてまとめた一冊の本、「タバコモザイクウイルス研究の 100 年」（東京大学出版会）を上梓された。2011 年には雑誌現代化学（東京化学同人）に、著名な生命学者が研究されていた当時を振り返り、若い世代の研究者の卵たちにメッセージを発信続けられた。

Streisinger 博士はゼブラフィッシュをモデル動物として研究を始めた先駆者として知られているが、不遇にも若くして亡くなった。私が学生の頃、岡田先生は Streisinger 博士の葬儀に行けないことを残念がっておられた。2010 年 Nirenberg 博士が亡くなった際には、その掲載記事を見たいのでコピーを送って欲しいと岡田先生から依頼を受けた。やはり研究人生の中で一緒に苦勞した研究者、互いに切磋琢磨した研究者のことは常に意識されていたのであろう。先生には長年の勞から解放されてまずは安らかに過ごされ、天国で昔の研究者と再会して、昔話に花を咲かせてほしいと思う。ご冥福をお祈りいたします。

(2022 年 9 月)

第45回日本分子生物学会年会 (MBSJ2022) 開催のお知らせ (その4)

会 期：2022年11月30日(水)～12月2日(金) (3日間)
会 場：幕張メッセ (一部オンライン開催)
年 会 長：深川 竜郎 (大阪大学大学院生命機能研究科)
共 催：日本生物物理学会

年会事務局連絡先：第45回日本分子生物学会年会事務局 (株エー・イー企画内)
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4階
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2022@aeplan.co.jp

年会ホームページ：<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2022/>

Twitterアカウント：<https://twitter.com/mbsj2022/>

※日本生物物理学会の会員は、日本分子生物学会の会員と同じ資格で本年会への参加・演題発表が可能です。

【年会長の挨拶 その4】

いよいよ会期が迫ってまいりました。ここ2年間は、本年会の組織委員会が発足した際は想像もしなかったパンデミック下での準備となりました。いろいろな心配事が尽きない準備期間でしたが、最近、ワクチン接種や実際の感染による集団免疫のためか、重症者は明らかに減少し、オンサイトを中心とした年会が開催できる見通しです。感染対策はきちっと講じた上で、白熱した議論を展開できる年会を開催したいと願っています。幸い、演題は順調に集まりました。一昨年のMBSJは完全オンライン、昨年はハイブリッドでの開催でした。本年もシンポジウムやワークショップは、ハイブリッドで行いますが、昨年以上にオンサイトで参加してくれる人が増加することを期待し、一般演題はオンサイトのみとしています。特に、海外からビザなしでの入国も可能となり、昨年はほとんど皆無であった海外からのオンサイト参加者が今年は増加しそうな勢いですので、オンサイトでの国際交流にも期待しています。

前回の会報でも少し書きましたが、本年会では、アメリカ細胞生物学会 (ASCB)、あるいはEMBOとのjoint企画を計画しています。大きく分けて三つの目的があるのですが、一つ目は、個人の研究者レベルでの交流を促進するための学会レベルでのパートナーシップを推進することです。二つ目は、国際共同研究を加速する共同研究費を獲得する戦略を議論したいと思っています。そして三つ目は、日本での研究ポジションが得られにくい現状を踏まえて日本以外でのキャリアパスについて議論するためです。学会内だけでの議論では解決しない問題もありますが、問題提起としてASCB、EMBOを巻き込んだ国際的な連携の中で議論したいと思っています。実際にASCBやEMBOから関連研究者が来日して、オンサイトで年会に参加してくれる予定です。毎日、お昼時にこれらの企画を行いますので、ぜひ立ち寄って議論に参加してください。また、このような国際企画に対してヒューマンフロンティアサイエンス機構 (HFSP) からの賛同を得て、MBSJ2022のゴールドスポンサーになっていただきました。

また、オンサイトを中心とした年会ならではの「Meet my Hero/Heroine」という企画を考えました。MBSJは巨大化しているので、若い参加者にとって、分野の「憧れの先生」と直接話す機会を持つことは案外難しいものです。ですが、それを促す目的でポスター会場のある時間に、下記の表にある「憧れの先生」に、机で待ってもらいます。是非、気軽に立ち寄って「憧れの先生」とお話ししてください。議論を吹っかけても喜んで応じていただける方々をお招きしています。名前だけしか知らない先生と直接話すための、極めて重要な機会と思います。

これらの企画に加えて、学会を楽しんでもらうための各種企画も現在進行形で考えています。本年会企画のアップデート情報は、年会HP、プログラムオンラインWebシステム (オンラインカンフ)、Twitterなどで拡散したいと思っています。もちろん、プレナリーに始まり、シンポジウム、ワークショップ、フォーラム、サイエンスピッチ (優秀賞出します)、ポスターに至るまで、充実した演題が並んでおり、サイエンス自体を一番楽しんでもらうための構成となっています。オンサイトで活発な議論を展開し、たくさんの共同研究の芽を見つけて、育てていただければ、主催者として

は喜ばしい限りです。さまざまな企画で楽しんでもらうのは、そのための仕掛けとご理解ください。

皆さん、幕張でお会いしましょう!!

第45回日本分子生物学会年会 (MBSJ2022)

年会長 深川 竜郎

(大阪大学大学院生命機能研究科)

【プログラム】

プレナリーレクチャー

シンポジウム

ワークショップ

ポスター

サイエンスピッチ (ショートトーク)

フォーラム

Meet my Hero/Heroine

キャリアパス委員会企画

研究倫理委員会企画

バイオテクノロジーセミナー

バイテクショートセミナー

出展者実演セミナー

企業テクニカルセミナー

高校生研究発表

機器・試薬・書籍等附設展示会

特別展示「ナショナルバイオリソースプロジェクト (NBRP)」

◆ ASCB-MBSJ joint session

・サイエンスシンポジウム

1AS-01 「境界を越える細胞生物学研究 Cell Biology across Boundaries」

ASCB、MBSJ からそれぞれ3名ずつ、各分野の最前線で活躍する細胞生物学者を招待し、既存の概念的境界を超える最新の研究成果について議論します。

【講演者】 Erika Holzbaur (ASCB president in 2023, University of Pennsylvania), Iain Cheeseman (Whitehead Institute/MIT), Kara McKinley (Harvard University), 杉本亜砂子 (東北大学), 五島剛太 (名古屋大学), 清光智美 (OIST)

・MBSJ-ASCB-EMBO-joint workshop Part1.: Building a strong partnership between MBSJ, ASCB, and EMBO.

各組織の年会長や代表/代理をお招きし、MBSJ, ASCB, EMBO が強いパートナーシップを構築するための議論を行います。

【講演者】 深川竜郎 (MBSJ2022 年会長)、Erika Holzbaur (ASCB president in 2023)、Fiona Watt (EMBO Director) /Bernd Pulverer (EMBO press)

【進行役】 清光智美 (OIST), Iain Cheeseman (MIT)

・MBSJ special program: The role of organization in international science

国際共同研究グラントやフェローシップを推進している国内外の財団/法人の方々や、国際研究雑誌の編集者をお招きし、それぞれの取り組みや研究支援についてお話し頂く予定です。

【講演者】 Human Frontier Science Program (HFSP) /Almut Kelber (Director of Research Grant) /Barbara Pauly (Director of Fellowship) / 桑川 泰一 (事務局次長), EMBO/Bernd Pulverer (EMBO press), 日本学術振興会 (JSPS), 北 真理子 (一般社団法人 Stellar Science Foundation)

【進行役】 清光智美 (OIST), Iain Cheeseman (MIT)

・ MBSJ-ASCB-EMBO-joint workshop Part2.: Navigating your career across boundaries

PhD、ポスドク、その後のポジションや、グラントをどのように獲得していくのか、国内外の様々な研究者をお招きし、パネルディスカッションを行います。また全体討論の後、日本、アメリカ、ヨーロッパの3つの地域に分かれてRound-table discussionを行い、それぞれの地域に即したポイントを議論します。

【パネリスト】 深川竜郎 (MBSJ2022 年会長)、茂木文夫 (北海道大学)、太田緑 (OIST)、Kara McKinley (Harvard University)、塩見美喜子 (東京大学)、Susan Gasser (ISREC, Switzerland)、他

【進行役】 清光智美 (OIST) , Iain Cheeseman (MIT) , Iris Wiczorek (EMBO consultant in Japan)

◆ Meet my Hero/Heroine

- ・大規模学会では、特に若い参加者の方々にとって「名前は知っているけれども...」という研究の先輩と交流する機会を持つことは案外難しいものです。そこで、第45回日本分子生物学会年会では、著名なあの先輩と直接話すための、きっかけをご提供する場を整えてみました。ポスターセッションの時間にサイエンスピッチブースで開催します。是非、気軽にお立ち寄りください！

日時：11月30日(水) 14：30-16：30、12月1日(木) 14：00-16：00

会場：幕張メッセ 国際展示場 (展示ホール4～6)

登壇日	登壇者名	所属
11月30日(水)	杉本 亜砂子	東北大学
	永井 健治	大阪大学
	塩見 美喜子	東京大学
	近藤 滋	大阪大学
	武部 貴則	東京医科歯科大学
12月1日(木)	上田 泰己	東京大学／理化学研究所
	岡田 康志	東京大学／理化学研究所
	野地 博行	東京大学
	高橋 淑子	京都大学
	谷内江 望	The University of British Columbia

◆キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー 2022

- ・「アカデミアからの起業」

日時：11月30日(水) 12：15-13：30

会場：第16会場 (幕張メッセ 国際展示場)

- ・「研究室の働き方改革～ with コロナ時代のネクストスタンダード～」

日時：12月1日(木) 11：45-13：00

会場：第16会場 (幕張メッセ 国際展示場)

※両日ともオンライン参加可

◆第45回通常総会

日時：12月1日(木) 19：00-20：00

会場：第19会場 (幕張メッセ 国際展示場)

◆研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー

「論文」を情報源とした発信、全部信じて大丈夫？」

日時：12月2日(金) 11：45-12：35

会場：第16会場 (幕張メッセ 国際展示場)

◆高校生発表

今年で11回目となる、高校生たちによる研究発表を行います。ぜひ、未来の分子生物学を担う高校生の発表をご覧いただき、激励の声をかけてください。

日時：11月2日(金)13:45-15:45

会場：第14会場（幕張メッセ国際展示場）

◆出展者実演セミナー

・出展者のショートプレゼンテーションを行います。最新機器、試薬などの情報を入手されたい方は是非、ご参加ください。

日時：11月30日(水)14:45-16:15、12月1日(木)14:15-15:45

会場：幕張メッセ国際展示場（展示ホール4～6）

セミナー企業：Cytiva、BGI JAPAN (株)、MGI Tech Japan (株)、(株)キアゲン、上海南方モデル動物バイオテクノロジー(株)、(株)セツロテック、ナノストリング・テクノロジーズ、(株)ナビインターナショナル、(株)バイオクロマト、(株)バイオダイナミクス研究所、横河電機(株)

◆企業テクニカルセミナー

・特設スポンサー企業によるショートセミナーを実施します。本年会初の試みとして1会場を学術プログラム以外の時間帯に企業へご提供しております。是非、ご参加ください。

日時：11月30日(水)14:30-16:30、12月1日(木)14:00-16:00、12月2日(金)13:45-15:45

会場：幕張メッセ国際展示場（展示ホール4～6）

セミナー企業：イルミナ(株)、(株)新興精機、(株)ニコンソリューションズ、ベクタービルダー・ジャパン(株)

【開催形式】

- ・プレナリーレクチャー、シンポジウム、ワークショップ、フォーラムは、オンラインでも、参加・視聴が可能なハイブリッド形式で実施します。
 - ・一般演題（ポスター、サイエンスピッチ（ショートトーク）は、現地発表のみとなり、聴講も現地参加でのみ可能です。
- ※今後の新型コロナウイルスの感染状況により、方針を変更する場合があります。

【感染症対策】

〈ご来場の前に〉

下記の事項のいずれかに該当する参加登録者は、現地参加は控え、オンラインでご参加ください。

- ・新型コロナウイルス感染症の陽性者で、療養期間・待機期間中の方
- ・新型コロナウイルス感染症陽性者の濃厚接触者で、健康観察期間中の方
- ・体調不良の方（37.5度以上の発熱・倦怠感・咳・咽頭痛・味覚・嗅覚異常などの症状がある場合）
- ・政府が定める国・地域からの帰国者・入国者のうち、自宅待機を求められている方

〈ご来場される方へのお願い〉

- ・マスク（不織布マスクを推奨）の着用をお願いします（着用が困難な場合は事前に事務局にお申し出ください）。
- ・会場内に設置されたアルコール消毒液等を使用し、定期的な手指消毒をお願いします。
- ・飲食をする際（展示会場、休憩場所、ランチョンセミナー等）、マスクを外した状態での会話はお止め下さい。黙食の徹底をお願いします。

【参加登録に関するご案内】

事前参加登録は10月7日(金)に締め切りました。以降の参加登録は下記要領にて受付いたします。

なお、事前参加登録を行った場合でも、10月10日（月・祝）までに参加登録費を振り込んでいない場合は、事前

参加登録は無効ですので、後期-当日参加登録を行ってください。

〈後期-当日参加登録〉

1. オンライン登録

- ・受付期間：10月24日(月)～12月2日(金)
- ・受付方法：年会ホームページの「参加登録」ページよりお申し込みください。
- ・参加登録費決済方法：クレジットカード決済のみ
- ・決済完了通知メールを出力いただくか、スマートフォン等で表示し、当日参加受付のスタッフにご提示ください。
参加章をお渡しいたします。

2. 当日参加受付での登録

- ・受付期間：11月30日(水)8:00～17:00
12月1日(木)8:30～17:00
12月2日(金)8:30～15:00
- ・場所：幕張メッセ 国際会議場 1階
- ・参加登録費決済方法：現金のみ

その他、参加手続きに関する詳細は、年会ホームページをご確認ください。

<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2022/>

◆参加登録費

		事前参加登録 7/1～10/7	後期-当日参加登録 10/24～12/2
正会員（一般会員）	分子生物学会	15,000 円（不課税）	20,000 円（不課税）
	生物物理学会		
学生会員	分子生物学会	3,000 円（不課税）	4,000 円（不課税）
	生物物理学会		
非会員（一般演題投稿なし）		20,000 円（税込）	25,000 円（税込）
非会員（一般演題投稿あり）		30,000 円（税込）	
学部学生 （会員・非会員問わず）		無料 ※演題投稿をされる方は「学生会員」、もしくは「非会員（一般演題投稿あり）」での参加登録が必須	

※プログラム検索・要旨閲覧システムの代金はすべてのカテゴリーの年会参加費に含まれています。

※後期-当日参加登録の参加費支払い方法は、オンライン登録でのクレジットカード決済、もしくは当日参加受付での現金による支払のみとなります。銀行振込は選択できませんので、ご注意ください。

※後期-当日参加登録者の参加章（ネームカード）は、参加いただく初日に会場でお受け取りください。

※シニア会員と次世代教育会員は、直接、年会事務局（mbsj2022@aeplan.co.jp）にお申込内容（①氏名②所属③会員番号）を明記したメールをご送付いただき、申し込んでください。

【要旨・プログラムサイト】

要旨・プログラムサイトは11月10日(木)に公開いたしました。

本年会では、Webシステムのみを採用し、アプリの作成はいたしませんので、ご注意ください。

要旨・プログラムサイトは参加登録システムと一体型となっておりますので、システム上で参加登録をされた方は、

ご自身で設定された ID・パスワードでログインしてください。

当日会場で参加受付をした方には参加章にログイン ID・パスワードを記載してお渡しします。

年会ホームページ上のリンクより「要旨・プログラムサイト」にアクセスしてください。

「要旨・プログラムサイト」へのアクセスはこちらから
年会ホームページ <https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2022/>

【全体日程表】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
11月30日(水)		レプレクレチャリー 8:30-9:20	シンポジウムワークショップ(150分) 9:30-12:00		キャリアパス委員会企画 12:15-13:30	ハイクセミナー 12:15-13:05	バイテクショートセミナー 12:15-12:35			シンポジウム(150分) 16:45-19:15	プレリレクチャー 19:15-20:05			
					MBSJ-ASCB-EMBO joint workshop Part 1 12:15-13:25	サイエンスピッチ 13:30-14:30	Meet my Hero/Heroine 出展者講演セミナー 企業テクニカルセミナー ポスター発表・討論 14:30-16:30			ワークショップ(135分) 16:45-19:00	フォーラム(90分) 19:15-20:45			
12月1日(木)			シンポジウムワークショップ(150分) 9:00-11:30		キャリアパス委員会企画 11:45-13:00	ハイクセミナー 11:45-12:35	バイテクショートセミナー 11:45-12:05			シンポジウムワークショップ(150分) 16:15-18:45	プレリレクチャー 19:00-19:50		フォーラム(90分) 19:00-20:30	
			ワークショップ(135分) 9:00-11:15					MBSJ special program 11:45-12:55	サイエンスピッチ 13:00-14:00	Meet my Hero/Heroine 出展者講演セミナー 企業テクニカルセミナー ポスター発表・討論 14:00-16:00		総会 19:00-20:00		
12月2日(金)			シンポジウムワークショップ(150分) 9:00-11:30		研究倫理委員会企画 11:45-12:35	ハイクセミナー 11:45-12:35				シンポジウムワークショップ(150分) 16:15-18:45				
			ワークショップ(135分) 9:00-11:15							ワークショップ(135分) 16:15-18:30				
								MBSJ-ASCB-EMBO joint workshop Part 2 11:45-12:40	サイエンスピッチ 12:45-13:45	企業テクニカルセミナー ポスター発表・討論 13:45-15:45	閉会式・表彰式 15:45-16:00			

キャリアパス委員会主催 ランチタイムセミナー 2022

「アカデミアからの起業」

日 時：2022年11月30日(水) 12:15~13:30
会 場：第16会場（幕張メッセ国際展示場）・オンライン
司 会：鐘巻 将人（国立遺伝学研究所）

●講演

安西 智宏（株式会社ファストトラックイニシアティブ 取締役・代表パートナー）
「ベンチャーキャピタリストから見る「起業」という選択肢」
本田 圭子（株式会社東京大学 TLO 取締役副社長）
「アカデミアからの起業—大学技術移転機関の立場から—」
仲木 竜（株式会社 Rhelixa 取締役 CTO・ファウンダー）
「株式会社 Rhelixa の成り立ちより見るアカデミアからの起業」
米満 吉和（株式会社 GAIA BioMedicine Chief Scientific & Technology Officer / 九州大学大学院薬学研究院 教授）
「起業：科学者が味わえる、なかなかスリリングなキャリアパス」

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員 & 演者の皆様

鐘巻 将人（遺伝研）、來生（道下）江利子（第一三共）、鈴木 淳史（九大）、林 克彦（阪大）、平谷 伊智朗（理研）、
斉藤 典子（委員長／がん研）、安西 智宏、本田 圭子、仲木 竜、米満 吉和

研究室から起業って一体どうやってするの？ 駆け出しの大学院生から既にシーズを持っている研究者まで、多くの方々に興味ある話題でしょう。海外の有名研究者がベンチャー企業に関与していることも聞こえてきますし、折しも国は「10兆円大学ファンド」を設立して、大学の研究成果と産業の橋渡しを推進しようとしています。しかし、周囲を見渡しても、研究室から起業する方法を一から教えてくれる人はなかなかいません。

そこで本ランチタイムセミナーでは、知財・技術移転の専門家、ベンチャーキャピタル関係者、大学から起業した研究者をパネリストとして迎え、キャリアパス委員とともに起業を取り巻く環境と課題を、海外との違いも考慮しながら議論します。その上で、今後、日本式の起業システムをどのように作っていくべきか、さらには起業以外に研究成果と社会実装を橋渡しするキャリアがあるのか討論します。これらを通して、研究室の周辺にはキャリア形成のチャンスが沢山あることを、会場の皆様と共有できる機会にしたいと思っています。参加すれば、大学院生からお歴々の先生まで、蒙を啓かれること間違いなし！

「研究室の働き方改革～ with コロナ時代のネクストスタンダード～」

日 時：2022年12月1日(木) 11:45~13:00
会 場：第16会場（幕張メッセ国際展示場）・オンライン
司 会：倉永 英里奈（東北大学大学院生命科学研究所）

●イントロダクション

倉永 英里奈

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員

倉永 英里奈（東北大）、石谷 太（阪大）、井関 祥子（医科歯科大）、岩崎 由香（慶應大）、島田 緑（山口大）、
菱田 卓（学習院大）、木村 宏（副委員長／東工大）

多くの研究室がそれぞれの目標に向かって日々精力的に研究をすすめていると思います。目標を達成するためには面白い発見をし、発表していくことが第一ですが、それを効率的に行うために様々な工夫が研究室で成されていることでしょう。さらに、ここ数年のコロナ禍を経て、これまで行ってきた工夫や研究室ルールの変化を余儀なくされたり、ま

たコロナ禍を機に始まった新しい工夫が非常に良かったり、と様々な影響があったのではないのでしょうか？

キャリアパス委員会では、様々な研究室で行われている研究を効率的に進めるための工夫に着目し、皆様が実際に研究室で行っていたり、取り入れたいと思っている工夫、またはそれに関するご意見を集めるため、8月に事前アンケートを実施しました。ランチタイムセミナーの当日は、アンケート結果から様々な工夫を紹介すると同時に、それに対する思い、立場や年齢による違い、理想と現実、コロナ禍を経た経験などを議論し、参加者の皆様に研究室運営や日々の研究の進め方のヒントを持ち帰っていただけるような有意義な企画にしたいと思います。コロナ禍前後でプライベートでの新たな友人等との出会いや遊び方に関する変化などについても話題提供します。是非ご参加ください！

※参加者の皆様にご自身のスマートフォン・タブレット端末等から専用サイトへアクセスしていただき、ご意見やセッション中に行うアンケートの結果などを会場のスクリーン及び Zoom Webinar でリアルタイム表示する「オーディエンスインタラクションツール (Slido)」を導入します。

研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー

「論文」を情報源とした発信、全部信じて大丈夫？」

日時：2022年12月2日(金) 11:45～12:35

会場：第16会場（幕張メッセ 国際展示場）

司会：中山潤一（研究倫理委員長／基礎生物学研究所）

近年、オープンアクセス化への流れが加速している。特に公的な研究助成によって得られた成果は、オープンアクセスによって自由にアクセスできるように公開すべきというのはもっともな意見であり、研究者、公的助成機関だけでなく、学術論文を出版する出版社が共同で取り組むことが望まれる課題であろう。一方、このオープンアクセス化の流れに便乗して、掲載料収入のみを目的とした粗悪雑誌が台頭するなどの問題も浮き彫りになってきた。また、プレプリントサーバを通して査読を経ない論文が公開された場合、その内容に基づき発信された情報に対して私たちはどのように接したら良いのか、様々な課題が指摘されている。

今回の研究倫理ランチョンセミナーでは、学術出版の多様化について講演者に話題提供してもらい、今後私たちはどのように論文を公開し、また公開された論文の情報に向き合うべきなのか、研究者の立場から議論する機会にしたい。

●講演

「学術出版の多様化と社会における情報の取り扱い—新型コロナウイルス感染症にまつわる実例から考える—」

井出 和希（大阪大学感染症総合教育研究拠点 /ELSI センター）

オープンアクセス型出版は年々増加し、未査読論文（プレプリント）の公開も広がりつつある。本セミナーでは、学術出版の多様化についてその歴史を振り返ると共に、新型コロナウイルス感染症を題材として社会に対する影響について実例を通して考える。なお、本セミナーでは、事前にお答えいただいたアンケートの集計結果も紹介することで、参加者自身にとってごく身近な研究コミュニティの動向も紹介する。活発な議論を通して、情報共有や対話の機会となることも期待したい。

第46回日本分子生物学会年会 開催のお知らせ（その1）

会 期：

（オンライン開催）2023年11月27日(月)～12月1日(金)※5日間

（現地開催）2023年12月6日(水)～8日(金)※3日間

会 場：神戸ポートアイランド

年 会 長：林 茂生（理化学研究所・生命機能科学研究センター）

演 題 登 録 期 間：2023年7月3日(月)～7月31日(月)※予定

事前参加登録期間：2023年7月3日(月)～10月10日(火)※予定

年会事務局連絡先：第46回日本分子生物学会年会事務局（株エー・イー企画内）

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4階

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2023@aeplan.co.jp

年会ホームページ：<https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2023/>

【年会長の挨拶 その1】

2023年の第46回年会長を務めさせていただきます、理化学研究所の林茂生です。この3年間は全世界の人々がCovid19のパンデミックに振り回されてきました。まだ感染が収束したとは言えませんがワクチンの接種や、感染対策が日常生活に定着したことで今年になってからようやくオンサイトの学会も各地で開かれるようになりました。私も5-6月に海外の学会に出席し直接議論を交わして交流を深め、専門家の率直な感想を得る事のありがたさを実感しました。9月に行われた国内学会ではポスター会場で呼び止めた初対面の研究者との議論が弾んで共同研究に発展するというおまけまでついてきました。直接話し合う事による情報の密度、議論の深みと予期せぬ出会いがやってくる事にこそオンサイト学会を開く価値があります。一方でパンデミックを体験した社会は元には戻りません。オンラインミーティングや在宅勤務の普及は家庭の事情などで出張がかなわない人たちが研究を続けることを可能にしており、Covid19が収束した後でも新しい研究スタイルとして定着することでしょう。会場に来ていただける方だけではなく、会場に来れない方に対しても年会に参加する実感を体験してほしいと考えます。そこで組織委員会の議論を踏まえて第46回年会はオンサイト+オンライン併用のフォーマットを採用します。まず11月27日から5日間をオンライン週間としてシンポジウムを開催します。午前、午後に時間帯を分けることで海外の演者にも参加しやすく出来ると思います。またオンデマンド視聴を用意する事で聞き逃しなしに、興味ある演題を何度でも聞いてください。その上で12月6日-8日のオンサイト開催に来ていただくようお願いいたします。ハイブリッドではなくオンサイト+オンライン併用としたのは1度限りのオンサイトの緊張感を大事にしたいということと、会場運営をシンプルにする事で通信障害などによるトラブルを減らしたいとの意図があります。会場は神戸ポートアイランドです。皆さん、セレンディピティを求めて神戸の街にお越しください。

第46回日本分子生物学会年会

年会長 林 茂生

（理化学研究所・生命機能科学研究センター）

【年会組織】

組織委員会

年 会 長：林 茂生（理化学研究所・生命機能科学研究センター）
組 織 委 員 長：榎本 秀樹（神戸大学大学院医学研究科）
プログラム委員長：平谷伊智朗（理化学研究所・生命機能科学研究センター）
組 織 委 員：岡田 由紀（東京大学定量生命科学研究所）
川口 喬吾（理化学研究所・生命機能科学研究センター）
久保 郁（国立遺伝学研究所・新分野創造センター）
宮道 和成（理化学研究所・生命機能科学研究センター）

【プログラム概要】

◆オンライン開催（11月27日(月)～12月1日(金)）

指定シンポジウム 10 企画、公募シンポジウム 30 企画程度（予定）、高校生発表
開催形式：Zoom ライブ配信＋オンデマンド配信

◆現地開催（12月6日(水)～8日(金)）

公募シンポジウム 80 企画程度（予定）、フォーラム、ポスター発表、高校生発表
開催形式：登壇者、聴講者ともに現地参加のみ
（オンライン配信やオンライン発表の対応はいたしません）

◆指定シンポジウム（全 10 テーマ）※オンライン開催

以下の 10 テーマで指定シンポジウム企画のオンライン開催を予定しております。

1. 動植物を通じて考えるリプログラミング原理と多様性

オーガナイザー：宮本 圭（近畿大学）、池内 桃子（奈良先端科学技術大学院大学）

リプログラミングは、分化した細胞が未分化状態へと遷移するために必須であり、動植物いずれにおいても観察される現象である。しかし、リプログラミング研究において、動物科学者と植物科学者の間でその普遍原理や多様性を協力して探る試みは未だ少なく、リプログラミングの包括的な理解は達成されていない。そこで本シンポジウムでは、コケ、種子植物、両生類から哺乳類に至るまで、幅広い生物学的システムを使用してリプログラミングを研究している科学者を集め議論する場を設ける。多様な生命システムをリプログラミングという共通の枠組みの中で議論することにより、リプログラミングの基本原則と多様な特徴を探求し、新たな研究の方向性を切り拓くことを目指す。

2. 進化する共生の理解

オーガナイザー：深津 武馬（産業技術総合研究所）

ERATO 共生進化機構プロジェクトでは、昆虫－大腸菌人工共生系を用いた大規模進化実験、および培養困難な共生細菌の遺伝子操作や全ゲノムクローニングを可能にする新規技術開発を突破口として、さらに無菌マウス腸内での相互進化系に展開し、無脊椎動物から脊椎動物にわたる共生機構の共通性と多様性の理解に取り組んでいます。本シンポジウムでは、共生進化の機構および起源への実験進化による実証的アプローチについて、最先端の研究分野の現状を共有することをめざします。

3. 表現型可塑性とエピゲノム制御による生物の適応戦略

オーガナイザー：三浦 徹（東京大学）、角谷 徹仁（東京大学）

地球上の多様な生物は、進化の過程で様々な適応戦略を獲得してきた。モデル生物と非モデル生物の両者における分子生物学やゲノミクスの進展から、どのような機構を獲得することで生物が表現型進化を成し遂げてきたかについての研究成果が蓄積しつつある。本シンポジウムでは、表現型可塑性とエピゲノム制御を用いた適応戦略に着目し、この分野で研究を展開している研究者による最近の発見から、動物と植物の枠を超えた新たな生物進化の原理を考察す

る。

4. 遺伝子制御ダイナミクスの解明：イメージングからシングルセルオミックスへ、そしてその先へ

オーガナイザー：大川 恭行（九州大学）、Timothy Stasevich（Colorado State University）

遺伝子は、細胞核のクロマチン構造レベルで転写され、その後、細胞質で必要に応じて翻訳され、タンパク質を合成する。このように、遺伝子発現は、外来および内在性のシグナルによって、複数の階層レベルで制御されるダイナミックで複雑なプロセスである。本シンポジウムでは、ライブセルイメージングからシングルセルオミックス、さらにその先のアプローチを用いて、遺伝子制御における様々な事象のダイナミクスを解析している研究者とともに、最先端のトピックスを議論したい。

5. オルガノイドを用いたヒト発生学

オーガナイザー：永樂 元次（京都大学）

近年、マウス等のモデル生物とは異なるヒト特異的な発生様式について細胞レベル・分子レベルで明らかになりつつある。本シンポジウムではオルガノイドを用いて、ヒト特異的な発生機構に迫る研究者に焦点を当て、今後のヒト発生学およびオルガノイド技術の方向性について議論したい。

6. クロススケール計測技術で細胞内のメゾスケールの構造動態に迫る

オーガナイザー：田中 元雅（理化学研究所）、仁田 亮（神戸大学）

生命科学あるいは基礎医学研究者の究極の目標の一つは、生命現象あるいは疾患を、原子・分子レベルから個体レベルまで切れ目なく理解することである。そして、これを達成するためには、20-500nm 程度のメゾスケールの細胞内現象の構造動態を可視化・定量化する技術の開発・整備が必要である。本シンポジウムでは、様々な細胞内構造・動態解析技術を開発あるいは応用し、メゾスケールの生理・病理現象の解明に取り組む国内外第一線で活躍する研究者にご参集いただき、メゾスケール解析技術の現状と展望を議論する。

7. 冬眠と代謝制御

オーガナイザー：山口 良文（北海道大学）、平野 有沙（筑波大学）

冬眠は、飢餓と寒冷に見舞われる厳しい季節を低体温・低代謝の休眠状態で乗り切る生存戦略である。冬眠現象自体は古くから人々の興味を惹いてきたが、その制御機構は未だ多くの点が謎のまま残されている。近年、解析技術の進歩や休眠状態を誘導する神経細胞の発見などにより、哺乳類の冬眠現象に新しい視点で切り込むことが可能となった。本シンポジウムでは、冬眠・休眠中の動物の体で生じる代謝変化に着目した最新研究を紹介する。

8. 合成バイオテクノロジーとその将来展望

オーガナイザー：鐘巻 将人（国立遺伝学研究所）、末次 正幸（立教大学）

生命科学の追求は時に革新的テクノロジーを生み出し、そのテクノロジーが分野をこえて広がる場所に新たなステージが生まれる。本シンポジウムでは、生命システムを自らデザインして作り上げたり、機能を拡張していくアプローチを合成生物学と位置づけ、合成生物学的アイデアを取り込んだ最新のテクノロジーを取り上げる。分野を超えたテクノロジーの議論の中から、生命科学の「Next Game Changer は何か」を野心的に展望していきたい。

9. 社会性行動の動的な制御を支える神経基盤

オーガナイザー：磯江 泰子（ハーバード大学）、宮道 和成（理化学研究所生命機能科学研究センター）

ヒトを含めて社会を構成する動物はそのライフステージ、経験、社会的な関係性を踏まえて適切に社会性行動を調整する必要がある。近年、このような社会性行動の動的な制御を支える神経基盤についての解明が進展している。そこで本シンポジウムでは分子遺伝学的ツールの発達した魚類・げっ歯類をモデルに、分子から神経回路、神経ダイナミクスを経て行動出力の調整に至るまで階層縦断的な新進気鋭の研究を中心に、今後の課題を議論する。

10. ウイルスによる Natural な外部刺激が細胞内・生体内で引き起こすイベントを知る

オーガナイザー：澤 洋文（北海道大学）、渡辺 登喜子（大阪大学）

ウイルスはタンパク質の殻と核酸、時に宿主細胞由来の脂質二重膜で構成されるシンプルで微小な構造体である。宿

主細胞に感染したウイルスは、増殖するために細胞内機能をハイジャックし、時には細胞内の構造を都合良く作り変える。ウイルス感染がトリガーとなり、細胞内・生体で様々な現象が起こり、時に細胞傷害・疾病を起こす。本シンポジウムは、ウイルスによる外部刺激=感染によって生じる細胞内・生体内イベントについての理解の深化を図る。

◆公募シンポジウム（約 110 テーマ予定）

オンライン開催、もしくは現地開催で公募シンポジウムを開催します。

会員より企画を公募しますので、後述の募集要項をご参照の上、奮ってご応募ください。

◆一般演題（公募シンポジウム口頭発表・ポスター）

公募シンポジウムでは一般演題から演題を採択いただきます。また、ポスターセッションにはディスカッサー制を導入します。演題投稿の受付開始は 2023 年 7 月 3 日(月)を予定しております。詳細は 2 月発行予定の次回会報、および年会ホームページにてご案内いたします。多数の演題投稿をお待ちしております。

◆高校生発表

オンライン開催期間に 1 セッション、および現地開催の最終日午後（予定）に、高校生による研究発表を予定しています。

◆市民公開講座

一般市民にも参加いただけるアウトリーチ企画の開催を予定しています。

◆バイオテクノロジーセミナー

企業との共催によるランチョンセミナーを開催いたします。

◆その他の企画

その他の企画は詳細が決まり次第、年会ホームページにてご案内いたします。

【公募シンポジウムの企画公募について（1 月 31 日(火)受付締切）】

本年会では、公募シンポジウムの企画を会員の皆さまより公募いたします。ご提出いただいた企画案は、プログラム委員会において厳正なる審査を行い、採否を決定します。採否結果は 2 月下旬に応募者へご連絡いたします。下記要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

◆募集要項

公募シンポジウム

- 講演言語はオーガナイザーに一任とし、1 テーマあたり、135 分の時間枠で、オンライン開催として約 30 テーマ、現地開催として約 80 テーマを採択予定です。
- 開催方法は「オンライン開催（11 月 27 日（月）～12 月 1 日（金）」「現地開催（12 月 6 日（水）～12 月 8 日（金）」から選択可能ですが、開催枠数の関係でご希望に添えない可能性もございます。予めご了承ください。
- オンライン開催の場合、原則、「ライブ配信+セッション単位でのオンデマンド配信」を行います。
※オンデマンド配信はセッション単位での配信となり、個別演題ごとの配信辞退はお受けできませんので、ご注意ください。
- 本年会では一人一演題の制限を廃止します。同一演者の登壇セッションの開催枠が同時時間帯に割り振られた場合にいずれかのセッションで代理演者をたてていただくなど、演者・オーガナイザー間で調整可能な限り、シンポジウムの講演者が他のシンポジウムやポスターセッションでの発表を行うことを妨げません。
- 一般演題から複数演題の採択をお願いいたします。
- 発表スライドは講演言語にかかわらず、全演者に英語での作成をお願いします。専門用語などについてはスライドや口頭で補助的に日本語を使用することを推奨いたします。

- 企画提案いただくオーガナイザーは1名でも2名でも構いませんが、少なくとも1名は分子生物学会の会員であることが必須です。
- 指定演者のうち30%程度を女性講演者としていただくことを応募条件とします。
- 若手研究者がオーガナイザーや指定演者に入っている企画を優先して採択します。
- 海外演者をオンサイトで招聘する場合には、年会から旅費（人数に関わらず1企画につき15万円）・宿泊（年会指定のホテルでの最大4泊分）を支給します（国内演者への旅費・滞在費・宿泊費の支給はありません）。
- 海外、国内を問わず、非会員指定演者の参加費は免除とさせていただきます。
- 新学術領域、学術変革領域、CREST、さががけ等の「冠」企画の実施も可能とします。ただし、班会議と同様の企画にならないよう、領域外の講演者を必ず含めてください。ホームページやプログラム集への冠表記には、20万円の協賛金の負担をお願いいたします。冠表記を希望する方は、応募サイトの該当欄へ掲載を希望する団体名等の必要事項をご入力ください。
- 企画採択されたオーガナイザーには、該当分野の一般演題の編成やポスターセッションのディスカッサーご就任を併せてお願いする場合があります。

◆応募要領

年会ホームページより専用の応募サイトにアクセスし、1月31日（火）までに下記の必要情報をご登録ください。

- 1) オンライン開催、現地開催のいずれを希望するかを選択
- 2) 開催言語（日本語・英語・演者が選択）
- 3) タイトル（和文・英文）
- 4) 企画略称
 - ・日本語8文字以内、英語5単語以内（半角文字も入力可能だが、全角文字と半角文字が混在する場合、半角文字も1文字としてカウント）。
 - ・可能な限り一般的ではない英語の略称は使用せず、企画の内容が分かるようなものとする。
 - ・化学式、数式の使用は極力避ける。
- 5) オーガナイザーの氏名・所属（和文・英文）・性別・年代・職位
- 6) 概要（和文・英文／和文全角200文字程度・英文半角400文字程度）
- 7) 予定演者の氏名・所属・性別・年代・職位（応募時点での演者による講演承諾は不要です）
- 8) 連絡窓口となるオーガナイザーの氏名、連絡先
- 9) 「1. 対象・現象など」「2. 方法など」の分類からそれぞれ2つを選択（以下の表参照）、3つのキーワード
- 10) 予想される聴衆数
- 11) 冠の有無、団体名

※企画の採否ならびに開催枠の割振りはプログラム委員会で最終決定いたしますので、希望に沿えない可能性もございますこと、ご了承ください。

1. 対象・現象など

大項目		小項目	
1	分子	a	ゲノム・遺伝子・核酸
		b	DNA複製
		c	組換え・変異・修復
		d	エピジェネティクス・クロマチン
		e	転写
		f	RNA・RNP
		g	翻訳
		h	タンパク質
		i	糖・脂質・代謝産物
		j	分子進化・比較ゲノム
		k	その他
2	細胞	a	染色体・核構造体
		b	相分離
		c	タンパク質プロセッシング・輸送・局在化
		d	細胞質膜オルガネラ
		e	細胞接着・細胞運動・細胞外基質
		f	生体膜・細胞骨格
		g	細胞増殖・分裂・周期
		h	シグナル伝達（翻訳後修飾）
		i	シグナル伝達（生理活性物質）
		j	細胞死
		k	その他

大項目		小項目	
3	発生・再生	a	器官・形態形成・再生
		b	幹細胞
		c	細胞分化
		d	初期発生
		e	生殖
		f	その他
4	高次生命現象・疾患	a	共生微生物
		b	生物リズム
		c	脳・神経系・神経発生・構造
		d	脳・神経系・行動
		e	脳・神経系・疾患
		f	免疫
		g	感染・ウイルス
		h	老化
		i	がん細胞
		j	がん組織・がん治療
		k	代謝・栄養
		l	遺伝性疾患
		m	植物
		n	その他

2. 方法など

i	核酸工学・ゲノム編集
ii	タンパク質工学
iii	ゲノム工学・細胞工学
iv	発生工学・オルガノイド
v	光遺伝学・電気生理学
vi	システム生物学・合成生物学
vii	ケミカルバイオロジー
viii	構造生物学（X線結晶構造解析・クライオEM）
ix	機能予測・薬物設計
x	バイオインフォマティクス
xi	オミクス解析

xii	シングルセル解析
xiii	イメージング
xiv	超解像・特殊イメージング法
xv	画像解析・バイオイメージインフォマティクス
xvi	病因解析・診断
xvii	個体行動解析
xviii	スクリーニング
xix	ロボット・ラボラトリーオートメーション
xx	深層学習・機械学習
xxi	数理モデル・シミュレーション
xxii	その他

◆お問合せ先

第46回日本分子生物学会年会事務局（株エー・イー企画内）

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4階

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2023@aeplan.co.jp

【日程表（予定）】

■オンライン開催

11月27日(月)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	公募シンポジウム 13:00-15:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
11月28日(火)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	公募シンポジウム 13:00-15:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
11月29日(水)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	公募シンポジウム 13:00-15:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
11月30日(木)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	公募シンポジウム 13:00-15:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15
12月1日(金)	指定 / 公募シンポジウム 9:00-11:15	公募シンポジウム 13:00-15:15	指定 / 公募シンポジウム 16:00-18:15

■現地開催

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12月6日(水)	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 15%; text-align: center;">シンポジウム ワークショップ 9:30-11:45</div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ハイテク セミナー 12:25- 13:15</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">学会企画 12:00-13:15</div> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;">シンポジウム ワークショップ 16:00-18:15</div> <div style="width: 15%; text-align: center;">フォーラム 18:30-20:00</div> </div>													
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 15%; text-align: center;">貼付</div> <div style="width: 15%;"></div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展示 見学会 13:15- 13:45</div> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ポスター 発表・討論 13:45-15:45</div> </div> <div style="width: 15%;"></div> <div style="width: 15%; text-align: center;">撤去</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 機器・試薬・書籍展示 9:30-17:00 </div>													
12月7日(木)	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 15%; text-align: center;">シンポジウム ワークショップ 9:30-11:45</div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ハイテク セミナー 12:25- 13:15</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">学会企画 12:00-13:15</div> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;">シンポジウム ワークショップ 16:00-18:15</div> <div style="width: 15%; text-align: center;">フォーラム 18:30-20:00</div> </div>													
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 15%; text-align: center;">貼付</div> <div style="width: 15%;"></div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展示 学会見 13:15- 13:45</div> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ポスター 発表・討論 13:45-15:45</div> </div> <div style="width: 15%;"></div> <div style="width: 15%; text-align: center;">撤去</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 機器・試薬・書籍展示 9:30-17:00 </div>													
12月8日(金)	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 15%; text-align: center;">シンポジウム ワークショップ 9:30-11:45</div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ハイテク セミナー 12:25- 13:15</div> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;">シンポジウム ワークショップ 16:00-18:15</div> </div>													
	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 15%; text-align: center;">貼付</div> <div style="width: 15%;"></div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">展示 学会見学 13:15- 13:45</div> </div> <div style="width: 15%; text-align: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ポスター 発表・討論 13:45-15:45</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">高校生 研究発表 13:45-15:45</div> </div> <div style="width: 15%;"></div> <div style="width: 15%; text-align: center;">撤去</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> 機器・試薬・書籍展示 9:30-17:00 </div>													

※あくまで2022年11月時点での予定であり、今後変更される可能性があります

キャリアパス委員会報告

1. 第45回日本分子生物学会年会に関連して

演題発表者の属性調査について

今年もオンラインで年会参加登録手続きをする際の最初に行う「新規アカウントの申請」の画面に属性調査項目を設定し、研究者の属性に関するアンケートを行いました。ご回答くださった皆様、ありがとうございました。このデータ全体としては年会参加者の属性を示すものですが、本委員会では継続して行っている経年調査の形に合わせてここから演題発表者等のデータのみを抽出し、結果の集計を進めております。分析結果は学会HPでご報告いたします。

2. アンケートの実施

キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2022「研究室の働き方改革～with コロナ時代のネクストスタンダード～」事前アンケート

2022年8月8日(月)～8月29日(月)の期間、キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー2022「研究室の働き方改革～with コロナ時代のネクストスタンダード～」事前アンケートを実施し、397名の方から回答をいただきました。ご協力ありがとうございました。この調査結果をふまえ、年会企画の準備を進めております。調査結果はランチタイムセミナーでご報告し、学会HPにも掲載する予定です。

3. コロナ禍における海外学術集会参加に関するネットワーク掲示板

時々刻々と変わる状況の中、コロナ禍の出口の見通しは未だにやや不透明ですが、少なくとも欧米には本年3月頃の時点で既に対面学会再開の機運が認められていました。オンラインツールの利用が活発になり、学会参加に掛かる移動時間や出張費が節約できるなどメリットも多いとはいえ、やはり対面学会への参加で

得られるものは計り知れません。キャリアパス委員会では、会員の皆さまをはじめ生命科学系研究者の方々が海外学術集会に参加される際の一助となればとの思いから情報交換サイトを立ち上げ、海外の学術集会等に参加された方から、現地事情や出入国の手続き、現地でコロナに感染した場合の措置といった体験談などの情報をお寄せいただき、学会HP上に掲示板形式のデータベースとして蓄積してまいりました。ご寄稿くださった方々にお礼申し上げます。

4. 男女共同参画学協会連絡会（連絡会）報告

「女子中高生夏の学校2022

～科学・技術・人との出会い～」（8月7日～8日）

「夏学」は全国の女子中高生を対象としたキャリア教育プログラムで、女子中高生が科学技術に触れ、同分野で活躍する女性や仲間と共に将来を考える機会を提供するものです。今年はオンラインでの開催となり、26都道府県から115名の女子中高生が参加しました。

夏学ではプログラムの一環として協力団体の研究者・技術者による実験・ポスター発表・キャリア相談などを実施しており、連絡会を通じて加盟学会へも参加募集が行われました。分子生物学会では全会員に呼びかけ、有志の方にご協力いただきました。募集の際には多くのお申し出をいただき、誠にありがとうございました。

〈ポスター・キャリア相談「研究者・技術者と話そう」〉

・「生命現象を分子レベルで理解する

～あるウイルス研究者夫婦の試み」

小林 美栄（慶應大）・小林 郷介（都医学研）

キャリアパス委員会 委員長 斉藤 典子

高校などへの講師派遣について

本学会では、生物学に関する講義を希望される高校などへ講師を派遣する事業を行っています。講師としてご協力いただける会員有志を人材データベースに登録させていただき、高校からのリクエストに応じて学会事務局でマッチングするというものです。その依頼内容は、授業の進捗に合わせた分野やテーマ以外にも、生物への興味・関心を高めることや分子生物学の領域の広さを伝えること、あるいは理系のキャリアパスに主眼をおいた講義などさまざまです。

SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定校のように講師の交通費をサポートしてもらえるケースもありますが、全国どこでも“無料”で派遣することを前提とした事業であり、交通費は原則会員のご負担となりますため、お申し出のあった会員のうち勤務地やお住まいが近い方をマッチングするなどの工夫をしています。

日本の未来を背負う若い世代への分子生物学の推進・普及という社会貢献としての取り組みでもありますので、会員の皆様には本事業へのご理解と積極的なご協力をお願いいたします。

〔高校などへの講師派遣 人材データベースへのご登録方法〕

学会事務局（education@mbsj.jp）宛に下記の情報をメールでお送り下さい（件名：“講師派遣事業への登録”）。

- ①基本情報：氏名、所属機関、連絡先（住所、電話、メールアドレス）
- ②専門分野：マッチングの際に使用（例：発生、再生、免疫、老化、植物、ゲノム編集、エピジェネティクス）
- ③講義／実習可能な内容の希望：タイトルの具体例など（これまで講師の経験がある場合は記載をお願いします）
- ④高校での出前講義、講演などの経験の有無：ある場合はおおよその回数（あくまで参考情報です）
- ⑤派遣可能地域：交通費のことがありますので、希望・可能地域などがあれば記載ください（例：関東地区）

〔講師派遣実績（会員氏名 50 音順、カッコ内の数字は講義等の実施回数）〕

荒木 正健（熊本大学生命資源研究・支援センター）（2）	島貫 瑞樹（沖縄科学技術大学院大学）（1）
石黒啓一郎（熊本大学発生医学研究所）（2）	下池 貴志（国立感染症研究所）（2）
稲田 利文（東京大学医科学研究所）（1）	末次 志郎（奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科）（1）
上野 勝（広島大学大学院先端物質科学研究科）（1）	鈴木 崇之（東京工業大学大学院生命理工学研究科）（1）
上原 啓史（長浜バイオ大学高大連携事業推進室）（1）	高田 幸（熊本大学発生医学研究所）（1）
海老原 充（関東学院大学理工学部）（2）	竹内 隆（鳥取大学医学部）（1）
大川 恭行（九州大学生体防御医学研究所）（1）	田邊思帆里（国立医薬品食品衛生研究所）（3）
大久保 直（北里大学医学部）（1）	谷内 一郎（理化学研究所生命医科学研究センター）（3）
大原 裕也（静岡県立大学食品栄養科学部）（1）	續 輝久（福岡歯科大学先端科学研究センター）（1）
嘉糠 洋陸（東京慈恵会医科大学医学部）（1）	中川 誠人（京都大学 iPS 細胞研究所）（1）
荻田 修一（三重大学大学院生物資源学研究科）（1）	中西 徹（就実大学薬学部）（1）
菅野 雅元（広島大学大学院医歯薬保健学研究院）（3）	中村 輝（熊本大学発生医学研究所）（1）
木賀 大介（早稲田大学理工学術院）（1）	中村 哲也（順天堂大学大学院医学研究科）（1）
北川 孝雄（北海道医療大学先端研究推進センター）（2）	名川 文清（東京大学大学院理学系研究科）（1）
栗林 太（川崎医科大学大学生化学教室）（1）	原 孝彦（東京都医学総合研究所）（7）
胡桃坂仁志（東京大学定量生命科学研究所）（1）	広田 亨（がん研究会がん研究所）（1）
黒柳 秀人（東京医科歯科大学難治疾患研究所）（1）	藤山秋佐夫（国立遺伝学研究所生命情報研究センター）（1）
小嶋 徹也（東京大学大学院新領域創成科学研究科）（1）	藤原 滋樹（高知大学理学部）（1）
小島 裕正（大阪公立大学大学院医学研究科）（1）	古野 伸明（広島大学大学院理学研究科附属両生類研究施設）（1）
駒野 淳（大阪医科薬科大学感染制御学研究室）（2）	本間 貴之（京都大学物質－細胞統合システム拠点）（3）
権藤 洋一（東海大学医学部）（10）	正井 久雄（東京都医学総合研究所）（1）
坂本 泰一（千葉工業大学先進工学部）（1）	松田 達志（関西医科大学附属生命医学研究所）（3）
佐野 和美（帝京大学理工学部）（1）	宮田 信吾（近畿大学東洋医学研究所）（2）
佐野 健一（日本工業大学基幹工学部）（1）	村井 耕二（福井県立大学生物資源学部）（1）
四方 雅仁（農業・食品産業技術総合研究機構）（1）	村田 成範（武庫川女子大学薬学部）（1）
篠原 彰（大阪大学蛋白質研究所）（11）	築瀬 澄乃（大東文化大学スポーツ・健康科学部）（1）
柴田 武彦（東京都立大学理学研究科）（2）	

第23期理事選挙結果のご報告

2022年11月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

過日、実施されました、第23期理事選挙につきまして、以下の通りに投票結果をご報告いたします。(第23期理事の任期は2023年1月から2024年12月までの2年間です)

- 選挙公示日 2022年6月10日(金) (会報133号発送)
- 投票期間 2022年6月23日(木)10:00～7月12日(火)17:00
- 開票日 2022年7月14日(木)
- 開票場所 日本分子生物学会事務局
- 開票立会人 第23期理事選挙・選挙管理委員会
(岡田由紀委員長、浦聖恵委員、鈴木崇之委員)
- 有権者数 10,719名
- 投票者数 1,645名
- 投票総数 16,450票 (うち白票5,868票)

○当選者(50音順)

阿形 清和 (基生研)	高橋 淑子 (京大・理)
大谷 直子 (大阪公大・医)	中川 真一 (北大・薬)
岡田 由紀 (東大・定量研)	中島 欽一 (九大・医)
鐘巻 将人 (遺伝研)	中西 真 (東大・医科研)
加納 純子 (東大・総合文化)	中山 敬一 (九大・生医研)
木村 宏 (東工大・科学技術創成研究院)	二階堂 愛 (理研・BDR/ 医科歯科大・難治研)
胡桃坂仁志 (東大・定量研)	仁科 博史 (医科歯科大・難治研)
見學美根子 (京大・iCeMS)	濡木 理 (東大・理)
後藤由季子 (東大・薬)	深川 竜郎 (阪大・生命)
小林 武彦 (東大・定量研)	三浦 恭子 (熊本大・生命)
小安 重夫 (理研・IMS)	三浦 正幸 (東大・薬)
斉藤 典子 (がん研)	水島 昇 (東大・医)
塩見 春彦 (慶應大・医)	柳田 素子 (京大・医)
白髭 克彦 (東大・定量研)	吉田 稔 (理研・和光)
杉本亜砂子 (東北大・生命)	吉村 昭彦 (慶應大・医)

以上30名

- 本選挙において、当選者の中から1名の理事就任辞退者が出ました。「理事選挙に関する選挙管理委員会内規」に基づき、選挙管理委員長と現理事長で協議を行い、その結果、次点者を繰上げ当選としました。また、細則第2条5) (⇒得票数上位30名の中に6名以上の女性が含まれなかった場合は、繰上げ当選調整を行う選挙ルール) の適用はありませんでした。ご報告します。

○第23期理事長選任について

2022年11月5日、東京で開催されました第23期新理事会準備会議において、後藤由季子氏(東京大学大学院薬学系研究科・教授)が第23期理事長(任期:2023年1月より2年間)に選出されましたので、ご報告いたします。

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.133 (6月号) および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 本学会の選考委員会審査用に、上記申請書類のコピー 1 部
- 3) 論文 (別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です)
- 4) 上記 1) 2) 3) の送付とは別に、学会用控として申請書の電子データ (論文は不要) を学会事務局 (info@mbsj.jp) まで送信して下さい。
電子データは Word、PDF ファイルのいずれでも結構です。
*必ず学会の締切日までに郵送資料と電子データの両方が到着するようにご手配下さい。

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 泊 幸秀
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 一條 秀憲
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がございましたら、学会事務局までお問い合わせ下さい。

※研究助成 (学会推薦) に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

※各種学術賞 (学会推薦) に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり 1 件となっておりますので、ご了解ください。
(本学会の事業年度は 10 月 1 日から翌年 9 月 30 日までです)
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いいたします。

第 22 期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

白髭 克彦 (東大・定量研)

(任期：2021 年 1 月 1 日～2022 年 12 月 31 日)

副理事長

水島 昇 (東大・医)、杉本亜砂子 (東北大・生命)

理事

深川 竜郎 (阪大・生命)

東山 哲也 (東大・理)

見學美根子 (京大・iCeMS)

近藤 滋 (阪大・生命)

糸 昭苑 (東工大・生命理工)

本橋ほづみ (東北大・加齢研)

中山 潤一 (基生研)

丹羽 隆介 (筑波大・TARA センター)

斎藤 通紀 (京大・医)

佐谷 秀行 (藤田医大・FCC/慶應大・医)

塩見美喜子 (東大・理)

泊 幸秀 (東大・定量研)

吉田 稔 (理研・和光)

吉村 昭彦 (慶應大・医)

原 英二 (阪大・微研)

一條 秀憲 (東大・薬)

小林 武彦 (東大・定量研)

小安 重夫 (理研・IMS)

倉永英里奈 (東北大・生命)

中川 真一 (北大・薬)

仁科 博史 (医科歯科大・難治研)

斉藤 典子 (がん研)

佐々木裕之 (九大・生医研)

塩見 春彦 (慶應大・医)

田中 啓二 (都医学研)

上村 匡 (京大・生命)

吉森 保 (阪大・医)

(アルファベット順)

監事

荒木 弘之 (データサイエンス共同利用基盤施設 / 遺伝研)、
石野 史敏 (医科歯科大・難治研)

幹事

庶務幹事 木村 宏 (東工大・科学技術創成研究院)、岡田 由紀 (東大・定量研)

会計幹事 東山 哲也 (東大・理)

編集幹事 上村 匡 (京大・生命)

広報幹事 原 英二 (阪大・微研)

国際化担当幹事 林 茂生 (理研・BDR)

集会幹事 塩見美喜子 (第 44 回年会)、深川 竜郎 (第 45 回年会)

第 22 期執行部

白髭理事長、杉本副理事長、水島副理事長、木村庶務幹事、岡田庶務幹事、
東山会計幹事、上村編集幹事、原広報幹事、林国際化担当幹事、一條研究助成選考委員長

Genes to Cells 編集長

西田栄介 (理研・BDR)

賞推薦委員会

泊 幸秀 (委員長)、糸 昭苑、斎藤通紀、本橋ほづみ、吉村昭彦

研究助成選考委員会

一條秀憲 (委員長)、見學美根子、佐々木裕之、吉田 稔、吉森 保

国際会議支援・選考委員会

小林武彦 (委員長)、小安重夫、近藤 滋、中川真一、丹羽隆介

キャリアパス委員会

斉藤典子 (委員長)、木村 宏 (副委員長)、石谷 太、井関祥子、岩崎由香、
鐘巻将人、來生 (道下) 江利子、倉永英里奈、島田 緑、鈴木淳史、多田政子、
林 克彦、菱田 卓、平谷伊智朗

研究倫理委員会

中山潤一 (委員長)、佐谷秀行、仁科博史、深川竜郎、西山朋子 (特別委員)

生命科学教育

塩見春彦 (担当理事)、岩崎 渉 (委員)

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2022年11月現在)

アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社エー・イー企画
科研製薬株式会社 新薬創生センター
コスモ・バイオ株式会社
株式会社 seeDNA 法医学研究所
ジェンスクリプトジャパン株式会社
第一三共株式会社 モダリティ研究所
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
中外製薬株式会社
株式会社東海電子顕微鏡解析
東洋紡株式会社 バイオプロダクト営業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社 開発企画部広報課
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究推進部 バイオ研究グループ
フナコシ株式会社
三菱ケミカル株式会社
ヤマサ醤油株式会社 R & D 管理室
湧永製薬株式会社 研究管理部研究管理課
ワケンビーテック株式会社 学術部

(22社、50音順)

■第 45 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2022) 公式サイト
URL: <https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2022/>

第 45 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2022) Twitter アカウント
URL: <https://twitter.com/mbsj2022/>

■第 46 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2023) 公式サイト
URL: <https://www2.aeplan.co.jp/mbsj2023/>

■日本分子生物学会 Facebook 公式アカウント
URL: <https://www.facebook.com/mbsj1978/>

特定非営利活動法人

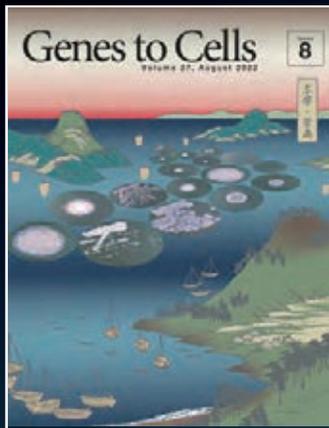
日本分子生物学会 事務局

〒 102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

人材開発ビル 4 階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp



Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Eisuke Nishida

Frequency: Monthly | Impact Factor 2.300

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界13,000以上の機関で読まれており、年間380,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。

Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- カラー掲載料無料
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への掲載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6カ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- オープンアクセス希望者はオプションで『Open Access』（有料）を選択できます
- 総説は日本分子生物学会のサポートをうけ、出版と同時に無料公開されます

オンライン投稿はこちら <https://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2020年・2021年出版 引用数TOP論文 *2022年8月現在

Tree of motility - A proposed history of motility systems in the tree of life (Volume 25, Issue 1)

Miyata, M; Robinson, R. C.; Uyeda, T. Q. P.; Fukumori, Y; Fukushima, S; Haruta, S; Homma, M; Inaba, K; Ito, M; Kaito, C; Kato, K; Kenri, T; Kinosita, Y; Kojima, S; Minamino, T; Mori, H; Nakamura, S; Nakane, D; Nakayama, K; Nishiyama, M; Shibata, S; Shimabukuro, K; Tamakoshi, M; Taoka, A; Tashiro, Y; Tulum, I; Wada, H; Wakabayashi, K

miR-29c-3p inhibits microglial NLRP3 inflammasome activation by targeting NFAT5 in Parkinson's disease

(Volume 25, Issue 6)

Wang, R; Li, Q; He, Y; Yang, Y; Ma, Q; Li, C

m⁶A demethylase ALKBH5 promotes proliferation of esophageal squamous cell carcinoma associated with poor prognosis (Volume 25, Issue 8)

Nagaki, Y; Motoyama, S; Yamaguchi, T; Hoshizaki, M; Sato, Y; Sato, T; Koizumi, Y; Wakita, A; Kawakita, Y; Imai, K; Nanjo, H; Watanabe, H; Imai, Y; Minamiya, Y; Kuba, K



iPhone, iPad 用ジャーナルアプリ
を使って閲覧できます。

← 無料ダウンロード

ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会員は無料でアクセスできます。

初回ユーザー登録は学会事務局まで (info@mbsj.jp)

登録後の問合せはWileyまで (cs-japan@wiley.com)



WILEY

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年3回刊行)

第134号 (2022年11月)

発行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——白髭 克彦